

繪本通俗三國志

五編

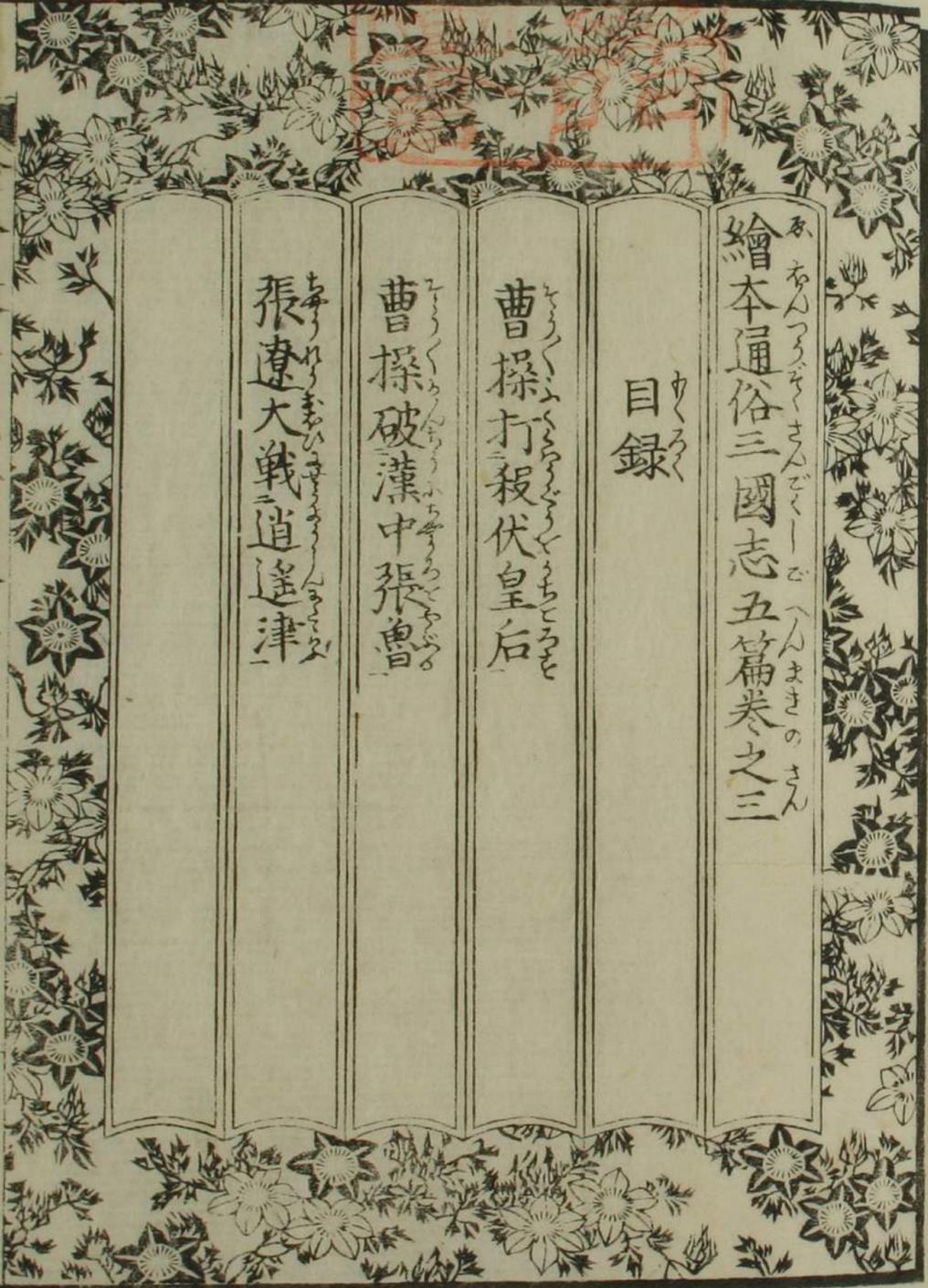
三

21  
221  
43



施  
221  
43

東京  
學  
林



繪本通俗三國志五篇卷之三

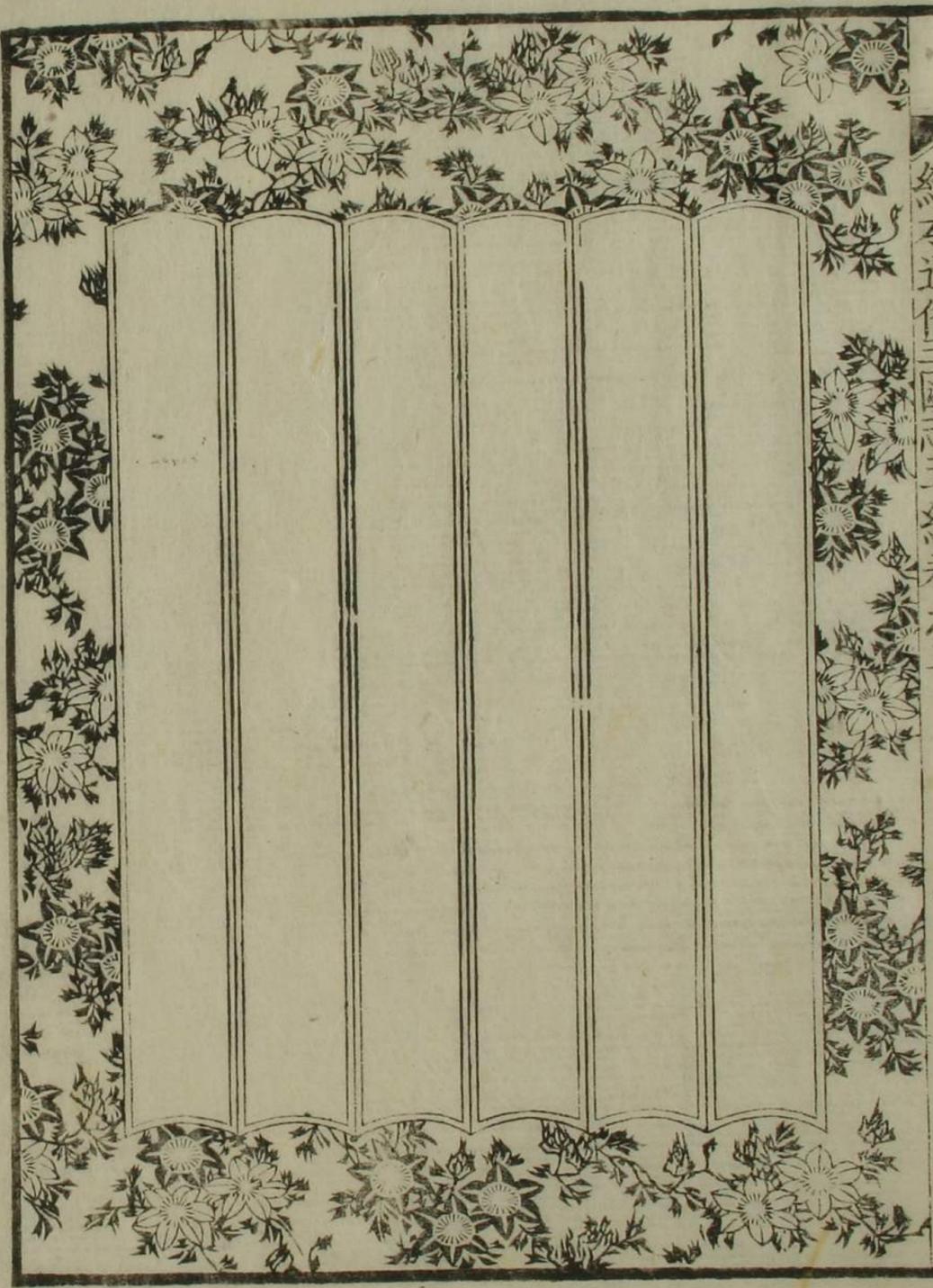
目錄

曹操打殺伏皇后

曹操破漢中張魯

張遼大戰逍遙津

繪本通俗三國志五篇卷之三



繪本通俗三國志五編卷之三

曹操擊殺伏皇后

建安十九年の冬曹操大軍を起し吳を滅ぼさんとて已  
み手分て定むるを參軍傳幹字彦材といふもの上殿  
して諫て曰く。

幹伏聞治天下之大具有二文與武也用武則先威用  
文則先德威德以相濟而後王道備矣往者天下大  
乱上下失序明公用武攘之十平其九今未兼二王  
命者吳与蜀也吳有長江之險蜀有崇山之固難  
以威勝易以德懷愚以為且按甲穴擾兵息軍艱士  
分土定封論功行賞若此則内外之心固有功者勸

而天下知制矣。然後漸興學校以導其善性而長其節義。公神武威震於四海。若修文以濟之。則普天下無思不服矣。今舉數十萬之衆屯長江之濱。若賊負固深藏。則士馬不能逞其能。奇變無所用。其權則天威有屈而敵心未服矣。惟明公思虞舜舞干羽之義。全威養德。以道制勝。則國家之幸也。願鈞察焉。

曹操見了。遂吳國。曰。王。止。學校。造。親。學者。道。教。政。治。民。懷。王。繁。杜。龍。衛。凱。和洽。各。四。人。侍。中。相。議。曹。操。尊。魏。王。位。即。也。中。令。荀。攸。也。決。

てあり。家。べ。う。ら。も。今。丞。相。官。魏。公。至。り。榮。九。錫。加。へ。爵。を。諸。侯。に。さ。て。や。て。已。に。金。坐。と。受。け。ひ。な。ま。へ。人。臣。の。望。身。に。餘。れ。り。今。又。王。位。に。即。け。り。ん。を。理。に。於。て。然。る。ん。ら。も。必。む。た。の。り。を。や。め。させ。り。又。と。諫。け。ま。す。曹。操。大。に。怒。り。ま。の。人。も。亦。荀。彧。に。あ。ら。ん。を。ち。り。ま。ら。う。と。云。う。荀。攸。の。意。を。志。り。て。十。月。に。病。に。伏。救。日。の。内。に。亡。び。け。り。と。ま。さ。年。五。十。八。歳。曹。操。の。由。を。ま。い。り。て。後。悔。し。あ。り。く。葬。の。儀。を。執。行。ひ。ま。ら。う。く。魏。王。の。り。を。閣。ま。け。る。あ。る。日。曹。操。劍。を。帶。て。内。裏。に。入。け。ま。す。帝。伏。皇。后。と。共。に。坐。し。て。御。座。あ。り。し。曹。操。が。来。る。と。見。て。ま。う。と。起。て。心。を。さ。せ。り。大。に。怖。ま。り。て。戦。ま。り。し。曹。操。や。け。る。女。德。と。孫。權。と。あ。の。く。一。方。の。覇。と。し。て。朝。廷。を。尊。を。ま。す。と。い。う。く。服。せ。し。也。人。帝。宣。

ひく。されど魏公の裁断あり。曹操怒て曰く。階下さやうの言を  
生し。身の文武の臣をよとてきて。ちがら偏に某が君を欺くと。沙汰  
し。帝宜く。君り。朕を佐ると。厚く。安んぞ。其恩を忘る  
べし。曹操座を起く。作り眼を。帝を威し。之れと。生し。時  
に。諫議郎趙儼といふもの。帝を見へて。近比曹操のけり。魏王  
とあらんと。とて。久し。うらむ。して。必き。天下を奪べし。と。奏し。けれ  
ば。帝伏皇后と哭き。悲し。た。早の由と。曹操を告る。そのあ  
り。曹操怒りて。武士を引具し。禁裡に打入り。趙儼を生捉  
て。市に斬。帝をよと。まいて。愕き。哭し。せ。ひ。け。は。伏皇后の曰  
く。父の伏完の常。曹操を殺さんと。と。あり。ま。入。て  
り。父の伏完の。計と。あ。さ。帝の宜く。む。

董兼事と成。と。密。あら。む。して。反て。大なる禍あり。恐く。と  
又事漏て。朕も。后も。憂目と。見。伏皇后の曰く。ま。り。と。い。と  
も。朝夕針の。坐。と。ど。く。片時も。ん。安ん。と。ま  
し。命存へて。あ。り。せ。ん。早く。死。ん。ま。常。と。ま  
付て。内官と。見。み。只一人。忠義を。正。して。曹操を。殺。さんと。す  
ふ。の。あり。ま。の人と。頼。んで。ひ。そ。父の方へ。文を。送。ら。ん。帝の  
宣く。い。ある。人ぞ。伏皇后の曰く。穆順。あ。ら。む。ん。叶。ま。と  
て。即時。あ。り。よ。せ。傍の人を。退。けて。帝も。后も。と。哭。ま。さ。あ  
し。曹操の。けり。魏主と。あ。り。て。天下を。奪。ん。と。と。あり。ん。あり  
宮中の人。よ。と。ぐ。く。う。ま。が。耳目あり。朕夫婦。と。ま。き。や。う。あ。り。誰  
語。ま。き。人。も。ま。汝。ひ。そ。ま。の。文を。伏完。に。送。り。と。ゆ。計。は



繪本通俗二國志五編卷之三



繪本通俗二國志五編卷之三

〇三



うるらむ仔細あらんとして自搜しけふ果して伏完が石をこ  
 とめる文あり披ひてまよとてるる女徳孫權とてらひし中  
 曹賊と殺さんと書たりけし曹操大に怒り穆順と志を以て  
 拷問せらるる更ニ落ざりし其夜三千の精兵を率して伏  
 完が宅で取囲み内に入るとあまねく搜しける伏皇后の文と  
 り生せり曹操いよく怒り伏完が三族を捕て獄に下し夜明け  
 御林將軍却慮を帥て持せし内裏に入れまの皇后の金  
 綬を奪て平人とおさしむあるとき帝の外殿に坐して御座あり  
 けふが却慮鎧たる精兵三百人を引て来りけし帝を  
 てあまのひがあらと問ふに却慮答て曰く魏公の命を受けて皇后  
 の金綬を収めし帝の洩たふを志めて膽を落し魂を失はて

怖と慄きし却慮直に後宮に入りけし伏皇后寢所より  
 生れし事の洩れたるをきいて急に掖房の門内を走り壁間  
 に藏れり又り志づらくありて尚書令華歆又五百の精兵を率  
 して後宮に入伏皇后に何れ居りしと問へども宮女を相推  
 て房中に藏れりしと答華歆兵を下知して朱戸を打登り  
 あまねく尋ねまども更に入らざる餘を求めらね刀を以て壁  
 を切開きけし伏皇后の門を喚ひて走り出りし華歆み  
 げらるるの髣髴と掴んで引出すと皇后はかく哭きわが命  
 を助けよと叫びし人華歆大に叱り汝をがら魏公よんへそ  
 哭けてて武士ども引立て髪を乱し跣足にして外殿に生け  
 れば帝のらむとて是の殿上より走り下后を抱て哭きし人華

歌声と怒り魏公の命あり速らむ行けと下知と皇太后を  
放りて哭き復活ると克とるりて地を倒さる人帝も御袖  
て推當朕命も料がたりといひて御涙を咽びる人武士の前  
後で打圍と后を追立て出まけり帝も望と見て胸を打  
哀と哭き却慮が傍ありし向て如何と却公天ト寧る  
るのゆめあらんやと宜ひ地の上を昏絶しひけしと却慮た  
さけて宮中へ入ると奉る華歆后を拜て曹操を見けしと曹  
操大に怒りも誠のんやゆりて天ト治む汝亦却てをを  
害せんと謀るるも汝を殺さるも汝も殺して殺さんとさるる  
ゆめ武士の命とて乱棒を打殺させ又宮中へ入ると伏皇后  
の生めん二人の皇子を酖毒にて殺し奉り伏完穆順が一門二百

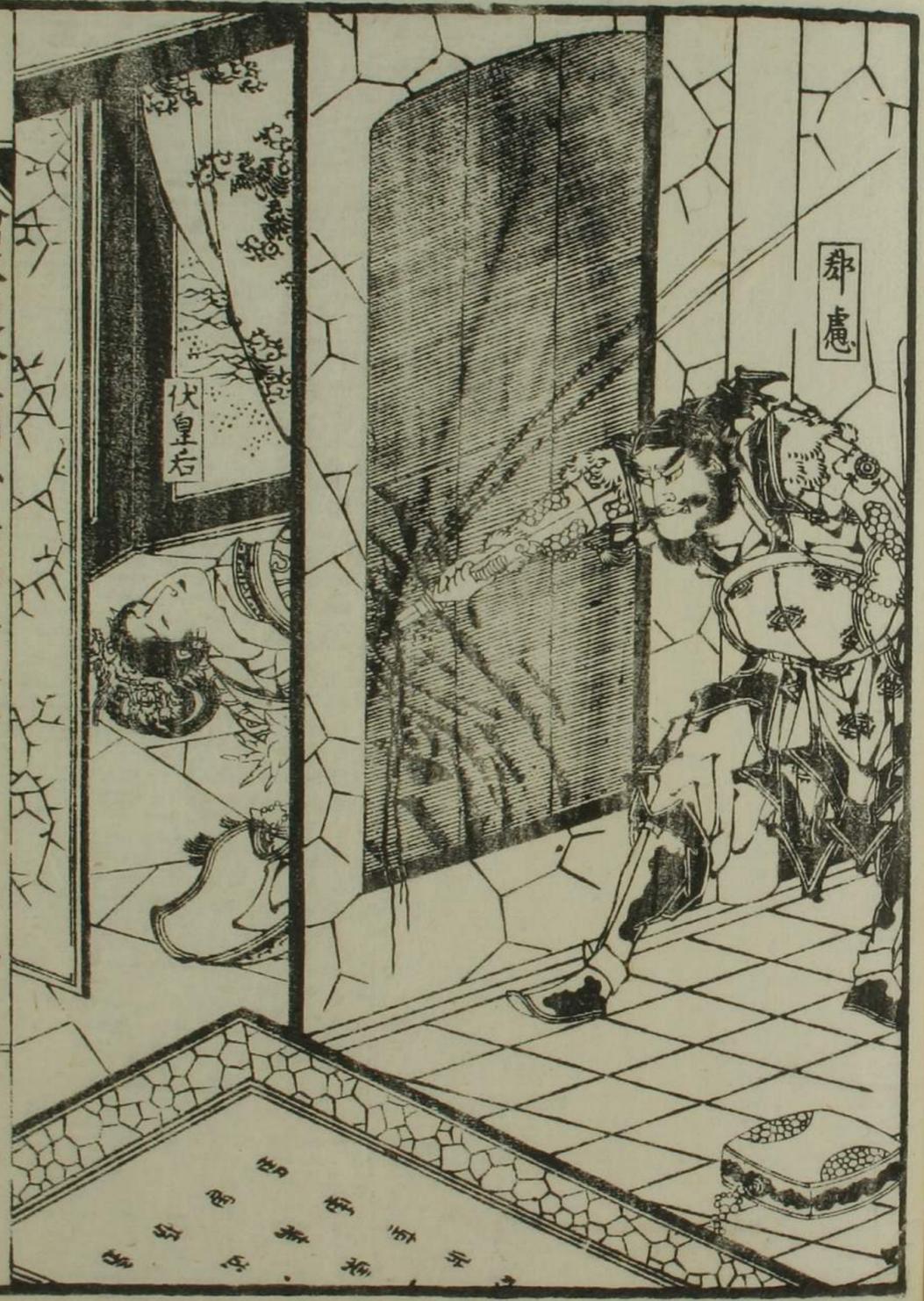
余人と捕て去るぐく市を斬けしと朝野の人と亦敬馬を怖とる  
る一時建安十九年十月あり帝は伏後の御哭きも曹操又ひ  
あるあらまき沙汰を致さんとて宸襟を安んトのへと連日供  
御をも聞し召まざるある曹操きたり見へて下けらる陛下す  
るも憂ひかゝる臣はうでる情なき行ひをなさる臣は女とて  
陛下の貴人なり大賢大孝にして宜く皇后を備へると勸  
けしと帝已とを得てしとされし従はせり建安二十年正  
月朔日曹操が女曹貴人と冊を立て皇后とすけしと群  
臣のて言と出るとのふありけり

曹操破漢中張魯

曹操手下の大將をのりて吳蜀と滅するのゆめと議しければ賈

翽中けふへ宜く夏侯惇曹仁をりて。このゆゑに議を曹操に  
ましたる。羽檄を飛して二人を召して。夏侯惇へはよ  
来らむ。曹仁は来りけむ。直に府中へ入て。曹操を見んと  
さる。ふりて。曹操酒を酔て。睡り居り。許褚劍を執り堂  
の門に立。曹仁を推して。内へ入。まじりけむ。曹仁怒て曰く。  
まよひをある。征南の重臣にして。曹氏の門に連る身なり。汝  
いふあり。そのちの此のごく無礼なる。許褚答て曰く。將軍の  
まよひ。曹氏の御一族にして。それを親とす。ちりて。已に外に  
出て。敵を征するの官に。某の疎にして。身賤き士卒されど  
も。内侍の仰を承りて。君の傍を離さず。今君酒を酔て。  
堂上へ卧り。この人を入。と云ふ。曹操はまじりて。

まじりて。走り出。虎侯がのゆるを。あはれ。明なり。誠は忠烈の大將  
なり。曹仁あやむと。あるれとぞ。けふ。日ありて。夏侯惇  
来りけむ。と。親を評高する。夏侯惇が曰く。呉蜀へは。こ  
まじりて。攻むらむ。まの漢中を攻て。張魯を滅す。勝のゆ  
て。蜀を伐む。一鼓して破るべし。曹操喜び。まよひ正す。まよひ  
ありとて。西征の大軍を。三手に分。夏侯惇。張郃。先陣と  
し。曹仁。復。侯。後陣として。兵糧を司らし。曹操を  
り。諸將と中軍を備へ。漢中をさして。推寄る。この由。先達  
て。漢中へ。まよひ。張魯を。諸將と計を。議する。  
弟の張衛。と。出て曰く。漢中。弟一の要害。陽平関。左右  
山。依林。傍。十。余。柵を下し。險阻を守りて。拒べし。



兄ハ漢寧ニ陣ヲ取テ兵糧ヲ送り。張魯アレニ志ナシ。張  
衛ト大将トシテ。楊昂楊任二人ト副將トシ。陽平關ニ坐テ  
拒ラ志ビ去程ニ曹操ガ先陣ノ勢カミ。陽平關ニ近付ケルガ  
敵大凱カミ。要害ニ支たりト告ケ。關ニ去テ十五里ニテ  
陣ヲ取リ。勢カミ長途ニ疲ミ。去テ。前後モ。去ラセ  
竊入ス。夜更ニ陣ノ後ヨリ火ヲ付。楊昂楊任。二手ニ分  
レテ推ヤセたり。夏侯淵張郃。竊耳ニ。打敬馬。馬ノ物  
具。よ。噪々。寄手ノ大勢カミ。去テ。討テ。入り。さ。ん。ぐ。ま  
蒐たり。魏ノ勢。若。于。伐。ミ。後陣ノ勢。カ。ミ。進。加。る。曹。操。先  
手ノ破。ミ。た。る。と。以。テ。大。怒。リ。復。疾。淵。張。郃。ト。呼。出。シ。汝。二。人。久  
しく兵ヲ用ヒテ。兵若遠行。疲困可防。劫寨。といふ。と。去。ラ。セ。り。

や。あ。の。人。油。断。シ。テ。此。ノ。と。く。討。ミ。た。か。ぞ。と。軍。法。ヲ。正。シ。ム。と  
討。り。け。か。を。謀。將。志。ヒ。テ。諫。シ。ゆ。や。く。免。け。り。次。ノ。日。曹。操  
と。け。ら。兵。ヲ。引。テ。先。手。ニ。さ。と。く。ま。の。地。理。ヲ。望。見。る。山。ノ。勢  
ハ。險。阻。ミ。シ。テ。樹。木。叢。ク。雜。り。け。し。バ。敵。ノ。伏。兵。あ。ら。ん。と。怖  
レ。テ。再。ビ。退。キ。回。リ。許。褚。徐。晃。二。人。ニ。ひ。つ。り。て。我。方。ノ。右。ノ。如。く。  
難。所。あ。る。と。善。ヨ。リ。志。シ。ら。べ。必。ズ。來。る。ま。ど。と。の。と。云。ハ。し。  
バ。許。褚。ガ。曰。ク。已。マ。た。の。石。ニ。行。迫。ミ。り。君。と。ま。り。も。揮。の。の。ま。り。立  
日。曹。操。と。け。ら。馬。ノ。以。テ。許。褚。ト。徐。晃。ト。な。り。二。人。ト。志。た。り。へ  
ひ。そ。う。來。テ。山。ノ。坡。ニ。上。リ。張。衛。ガ。陣。ト。望。ミ。伺。ヒ。遙。ニ。鞭。ヲ。揚  
テ。敵。ノ。陣。此。ノ。と。く。堅。固。あ。ら。ば。き。う。ニ。破。ガ。た。く。ら。ん。と。云。け。る。と  
あ。ろ。又。勿。心。然。と。し。後。又。喊。ノ。聲。ヲ。あ。げ。矢。ヲ。放。テ。兩。ノ。正。曹。操

敬馬ひて。まう顧と楊昂楊任二手の勢殺し来る許褚大音舉  
るまへ敵と拒ぐべし。徐晃の君と守護して生る人とよむるも敵の  
大勢四方より群り蒐りけふと許褚刀をまけて勇て振ひ戦ひ  
けし。楊昂楊任が大勢その怪カニ怖きて一人も近付たあを  
馬を回して引退く。徐晃の間に曹操と扶けて許褚となす三騎  
みて大勢の中を軌破りけふとた一手の兵をせ来る曹操を  
る敵へのあらで。復疾洲張郃が援の勢あり。敵の追蒐と  
て。取て回してまうぐ。戦ひ曹操と守護して本陣を回りけし。バ  
曹操死を逃きたる心地して四人の大將と重く恩賞した。バ  
相拒んで五十余日及びたる。軍ひあがりく。曹操下  
知と傳へて陣屋を拂ひ都を回らんとす。賈詡が曰く。敵の勢ひ猶

い。強弱とを。君あふ人退き。曹操が曰く。まう。あ  
敵の兵日夜要害と守りて。まう。中破りたうら。ま  
非て引退くと沙汰せ。敵うらむ。心怠て油断とべし。其  
及て。騎馬の勢と輕くとまう。偕敵の後を襲つ。敵うら  
を破る。賈詡が曰く。丞相の神機た。まう。よく測知。曹操  
す。復疾洲張郃の。三千余騎を付て。二手。備小路  
をまう。陽平関の後を攻ませ。まう。大軍を収て引退く。体と成  
けし。楊昂とまう。付楊任。まう。けふ。まう。曹操退ひ。都  
回る。勢の。まう。討べし。楊任が曰く。い。よく。曹操の計  
極て。まう。まう。真実を知。輕くと。追べ。楊昂が曰く。是  
時で失く。まう。御辺の。まう。住。まう。自ら追馳。楊任再三

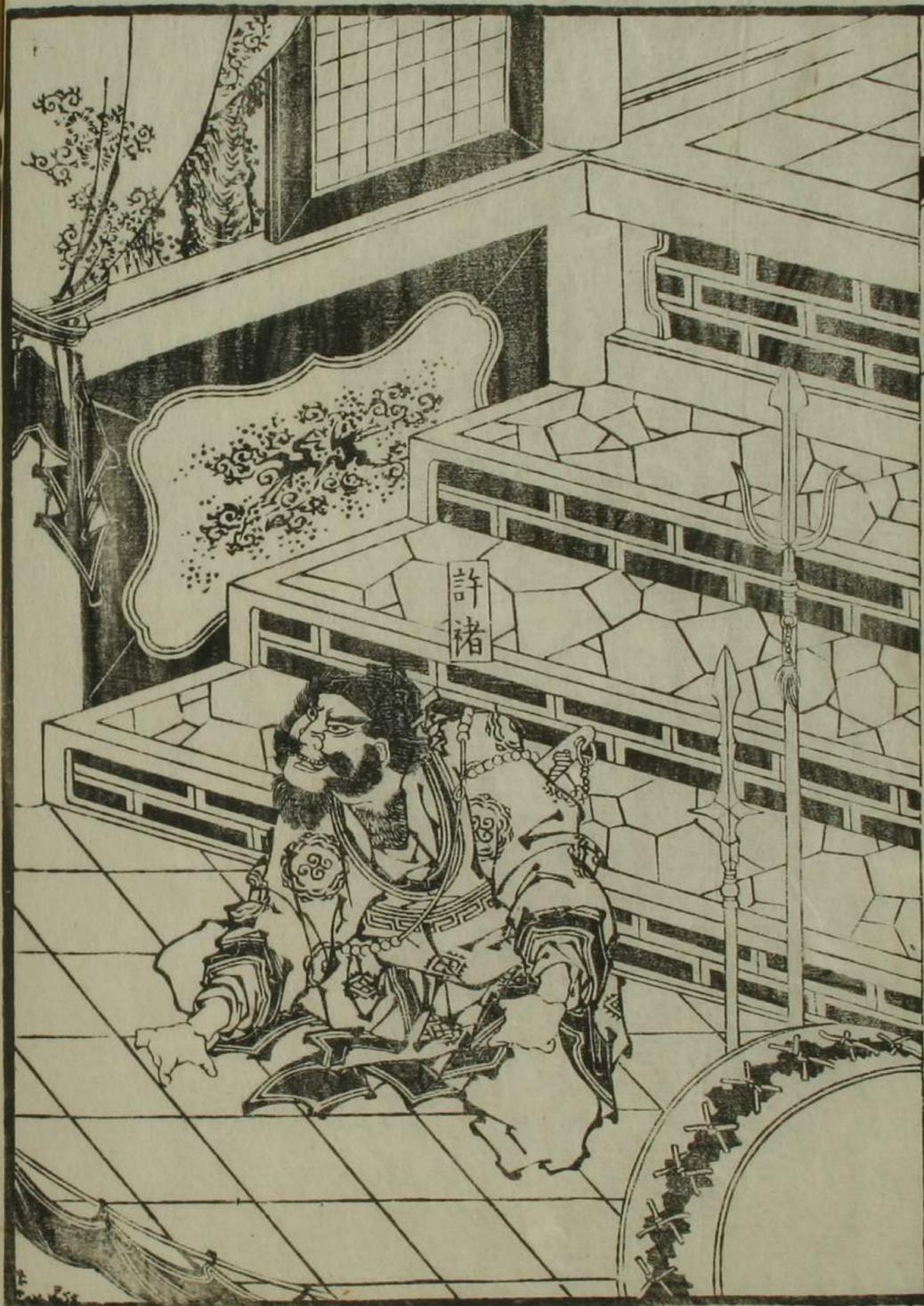


乞て戦ひて決し。若打負あべ。まらむ軍法と蒙らむ張魯を  
 れ。又二万余騎と分共。南鄭関を陣と取し。このと  
 復疾淵を勝軍と収て。曹操を見へ。兵を進めんと。け  
 曹操が曰く。まづ一軍をやめて。行先を伺へ。大軍跡より進む  
 べし。復疾淵を五千余騎分共。南鄭の路を窺ひ。む  
 端あり。楊任が勢と出合。たぐひ。陣をひらき。張て。楊任が陣よ  
 り。大将昌奇といふ。馬を生して。復疾淵と鋒と交ける。が  
 戦三合あり。馬より下り。切て。落る。楊任をたんと。し。け  
 鎗をひきりて。突て。蒐り。戦ひ。三十余合あり。勝負を分た  
 復疾淵。詐り。負て。走り。け。楊任をたんと。追馳る。を。復  
 疾淵。引回して。楊任と。一刀を切て。落る。敗軍。大将を討て。く

四角八方へ。逃たり。け。曹操大軍を馳て。大ま。南鄭関を  
 陣と取。張魯の由て。まいて。怖。文武の大將を集む。  
 計を問。け。大将閻圃が曰く。某一人を勸て。敵と拒し。や  
 ん。張魯が曰く。あ。人。閻圃が曰く。南安。道の人。龐徳  
 字へ。令。明。といふ。の。あり。初。馬超。ま。た。の。来り  
 一。馬超。が。蜀。を。む。む。の。病。を。伏。て。ま。留。れ。り。久。く。君  
 の。思。養。を。被。る。あ。ん。ぞ。ま。の。人。を。用。ひ。の。が。張。魯。げ。も。と  
 喜び。即時。龐徳を召て。ま。ら。持。せ。り。一。万。余。騎。を。ま。は  
 興。け。龐徳。十。里。あ。ま。り。出。て。陣。を。取。曹。操。善。て。龐徳。名  
 て。ま。り。渭。橋。の。戦。ひ。ま。の。手。双。の。程。を。た。り。し。手。下。の。大  
 將。を。け。る。龐徳。も。西。涼。の。勇。將。を。初。馬超。を。使。ひ

いま張魯も依りてとどむ。そのんまららま喜ぶ。てはまののた  
 得て味方を用ひんとす。汝もも緩く戦ふ。かまが氣力を  
 疲る。あまごど勢ひて擒まよといひらま。張郃一番馬と  
 出。二三合戦へて引退く。二番も夏疾洲馬と出。まら  
 く戦ふて走りけま。三番も徐晃入代て五六合な。ひ報  
 りて引退く。四番も許褚馬と出。五十余合戦て退きま  
 る。龐徳とま。怖る氣色や。諸大將も曹操もて  
 龐徳が武藝よの常あらむと。称嘆しけま。曹操の中  
 も喜ひ。諸將と計を議ま。賈詡が曰く。張魯が手下。楊  
 松といへる謀士あり。まの人。怒あくと。知て。極て賂な  
 合。今。金帛を送りて。かまが。ま。張魯の龐徳を

疎んぜま。曹操が曰く。い。て。人。南鄭の城。入。賈詡が  
 曰く。明日鋒を交へて。報負て引退き。陣屋を敵ま。と。夜  
 入り。大軍を。四方より襲へ。龐徳も。退ひて。城  
 入り。そのとき。弁舌の人。と。歩軍。ま。城。中  
 入り。ひ。楊松を。尋。て。の。計。を。行。ま。曹操大。喜  
 び。一人の士卒。ま。の。を。云。含。黄金の。當。膚。ま  
 被。表。の。漢。中。の。兵。の。出。立。ま。て。半。途。出。て。相。待。せ。次。の。日。夏。疾  
 洲。張。郃。二。手。の。勢。を。遠。く。出。て。埋。伏。せ。徐。晃。二。軍。を。付  
 て。敵。の。陣。を。攻。蒐。ら。し。龐。徳。兵。を。駈。て。進。め。徐。晃。た。く  
 ぐ。二。三。合。ま。り。て。報。り。て。逃。走。る。龐。徳。勢。ひ。の。め。て。追。蒐。卒。ま  
 曹操。先。手。の。陣。屋。を。奪。ひ。取。ま。の。陣。中。の。兵。糧。な。く。有。る



許褚



曹仁

許褚勇部  
曹仁と柳直と

○一勝軍の様を張魯に報つけければ張魯大に喜びけり其夜  
二更の比に至りて俄に三方より火をうけて徐晃許褚中央  
よりあしませ左に張郃右に夏侯淵の屯天地を揺るがれ  
ば龐徳馬のりて陣屋を上げ家とまき早敵の大勢をだま入  
るまよみりて一支も支もど南鄭をさしして逃走るも後より曹  
操が大軍追蒐しつゝ龐徳を二万余騎まどぐく城中入りき  
びく守て拒ぎたぐりふあの騒動を曹操が細作城中にまたま  
入り揚松が家を尋ねてひそり黄金の心當を贈り曹丞相  
くく足下の盛徳をまいて某てのりて好むとむとぐく乃答  
尚ありとて生しければ揚松ひらききてとれち使に問て曰く  
いま丞相へさるるのりて願ひ入る使答て曰くやー龐徳を遠け

のりて丞相喜びのりふ揚松が曰くあののりまよりのりて易く汝  
まのりて直に張魯を見へ龐徳ひそり曹操の内應りて  
今日の軍を負たりと説けければ張魯大に怒り即時に龐徳  
を呼生してさしむぐと討り首を刎るといひりて鬪圍辣めて  
それと止む張魯怒り死体を汝の目の戦ひに勝をんをさ  
らむ首を刎るといひければ龐徳恨て合で退生す次の日曹  
操が大勢攻蒐ければ龐徳兵を引て城をとりたふ許褚を  
くり馬を止し志づらく戦みて逃走りければ龐徳まき追蒐る曹  
操馬のりて山の上立大音あげて龐徳をんぞ早く降ら  
ざるとよびりければ龐徳きめとて曹操を生取んとおも  
ひ千余騎を引て真地暗に上りけるが忽然として喊のり入

ひびき。人馬とや。陥穴の中。に北落入り。上を下へと蠢くるを。四方より  
 熊手。引け。卒。麗徳と生取て。曹操が前。におし。生と。曹操  
 馬より。飛下軍士を。追々。つめて。その。繩と。解。平。我  
 又。仕よ。といひ。け。麗徳。を。志。と。感。と。張。魯。が。情。あり  
 一。と。恨。卒。再。拜。して。降。人。と。ある。曹操。き。り。あ。く。喜  
 び。扶。けて。馬。の。せ。態。と。疲。の。辺。と。打。通。り。響。て。双。び。本。使  
 回。り。け。る。漢。中。の。兵。糧。の。上。より。あ。ま。と。望。張。魯。に。報。ト  
 て。只。今。麗。徳。と。曹。操。と。馬。を。双。と。通。たり。と。告。げ。張。魯  
 大。怒。り。され。ぞ。楊。松。が。言。違。を。と。い。よ。く。大。ま。す。楊  
 松。と。重。ん。む。次。の。日。曹。操。が。大。軍。三。方。より。か。よ。せ。雲。の。梯。と。作  
 り。あげ。て。鉄。炮。火。矢。を。雨。の。ど。く。放。ち。け。張。魯。を。と。

振。ぎ。弟。張。衛。と。計。を。議。す。張。衛。が。白。く。志。火。を。付。く  
 城。郭。倉。廩。を。焼。尽。し。巴。中。に。走。て。要。害。を。守。る。楊。松。が。白  
 く。門。を。ひ。ら。い。て。速。に。降。り。張。魯。猶。豫。して。い。ま。と。決。せ。ざ  
 り。け。張。衛。が。白。く。の。急。あり。早。く。火。を。う。けて。巴。中。に。去  
 る。張。魯。が。白。く。元。命。を。國。家。に。取。せん。と。い。て。意。い。ま。違。を  
 る。と。得。た。い。ま。鋒。銳。を。避。て。去。と。い。ん。ど。も。あ。ん。ぞ。惡。意  
 と。存。ん。む。城。郭。倉。廩。の。元。を。國。家。の。物。と。し。て。私。に。癩。び。き。理  
 あり。と。財。室。の。倉。廩。を。あ。と。ぐ。鎖。を。閉。て。よ。く。封。ト。そ  
 の。夜。の。二。更。の。家。の。老。少。を。尽。く。引。具。し。南。の。門。を。出。て。走。り。け。り。  
 曹。操。大。軍。を。引。て。城。中。に。入。け。張。魯。が。倉。廩。を。封。ト。た。る  
 と。告。る。の。あり。曹。操。あ。ま。と。甚。と。憐。れ。兵。を。制。して。追

しめむ人を巴中へ遣して。降参せむ重く用ひしといふ事。張  
 魯へ降らんとおもひしとども。弟の張衛あてて従ふ。楊松ひそ  
 へ曹操へ各簡を送て。攻蒐多と告る。曹操大軍を引て。巴  
 中へ寄る。張衛あてて。城を出て戦ひけり  
 許褚と出あひ。刀を斬きけり。敗軍走り回りて。その由を告げ  
 張魯固く守りて。拒んとす。楊松曰く。今若戦はむ。ばくあ  
 らむ。大なる禍あり。某よくその城を守ら。君もくはらして  
 たり。よく勝負を決し。閻圃曰く。君もくはらば。城を出る。家恐  
 らむ。不慮の憂あり。張魯曰く。楊松が意見。よく合はる。手  
 卒に閻圃を諫て用ひむ。城を出て戦ふとせむ。手  
 下の勢後より乱る。あまよひて急退るとせむ。曹操が大

軍透間もろく追来る。張魯城下へ到て。門をひらけとせむ。り  
 けむ。楊松あてて開き。り。力あり。馬を回さんとせむ。  
 曹操大音あげ。早く降参せよと呼ぶ。張魯とんきやうあ  
 馬より下て地へ拜伏し。曹操大に喜び。倉廩を封と  
 たる志を感じて。殷勤あてて。鎮南將軍を封と。閻圃  
 亦五人を列侯とす。漢中へとぐく。定め。刀以郡。地  
 頭を居て。士卒を賞す。楊松の君を賣て。富貴を令負る。曲  
 者あり。諸人の戒めんとて。市を出し。殺し。けり。人民を  
 快しとせむ。あひけり。

張遼大戦道遥津

曹操巴中へ攻取けむ。主簿司馬懿字の仲達とくみ

生て曰く。玄德詐の計を以て。蜀の劉璋を虜す。その國を奪  
取た。亦も人民いまだを安んぜず。今丞相を以て漢中を取  
りひぬま。蜀中震動して。人民たどぐく。怖を戦う。この時  
よのめて速く攻り。勢ひうちらぎ。瓦のごく。碎け。聖  
人も不可違時。又不可失時。と入り。早く兵をさく。ゆる。曹  
操。嘆じて。下け。人とも足とを。既。龍を得て。復  
蜀を望ん。劉曄が曰く。仲達が意見。某。同一。玄德へ。度  
ありて。遲重なり。蜀を取て。日。い。久。く。人民。ち。び。心  
飯せ。今。丞相。漢中。で。取。り。ひ。て。蜀中。震。ひ。怖。る。その。勢。ひ。お  
の。び。う。ら。傾。く。丞相。の。神。武。を。あ。り。て。その。傾。く。と。さ。る。と。靡。べ。あ。る  
勝。も。と。い。ふ。と。あ。ら。ん。や。若。幾。々の。沙。汰。に。及。び。ち。べ。文。は。孔明。の

り。よく國を治む。武は。関羽。張飛。趙雲。黃忠。馬超。と。云  
三軍。を。秀。た。る。勇。將。あり。あ。ま。と。号。して。五。虎。と。呼。ぶ。蜀。の。民。を  
で。定。り。諸。處。の。関。隘。を。固。く。守。り。ち。後。に。大。なる。患。を。成  
ん。い。ま。速。く。攻。り。曹。操。が。曰。く。志。う。り。と。い。ふ。も。が。勢。と。さ。く  
来。り。て。ま。と。ぐ。く。疲。を。苦。む。あ。ら。う。く。人。馬。を。休。息。せ。し。む。下  
と。て。兵。を。按。住。し。て。さ。ら。う。動。を。あ。の。と。ま。蜀。の。國。は。曹。操。已  
漢中。を。取。たり。と。ま。い。て。人民。と。あ。怖。ま。う。ち。ら。ぎ。勢。ひ。よ。の  
めて。攻。来。べ。し。と。い。ふ。沙。汰。し。て。日。夜。と。あ。ん。と。安。ん。ぜ。ま。風。吹。草  
の。動。を。や。て。も。膽。を。冷。し。て。怖。を。戦。ま。い。る。玄。徳。お。れ。を。憂。ひ。て  
計。を。孔明。に。問。ふ。孔明。が。曰。く。某。一。計。あり。曹。操。元。より  
張。遼。を。大。將。と。して。合。肥。の。城。を。守。せ。吳。の。孫。權。を。拒。が。し。む。



いま弁舌の人て。吳の國を遣して。之を荆及びの三郡を吳に返す。利害を説いて。孫權を合肥の城を攻めさせ。曹操必を南方に回らん。玄德大喜んで曰く。誰を遣はして。この使とせん。一人進出て曰く。某願くへ行かん。諸人皆之を許さず。玄德曰く。伊籍あり。玄德志るるを以て。昏闇を渡して。之を荆及びに立寄て。江夏長沙桂陽の三郡を吳に還す。渡るとなき由て。関羽に告よと。宣人伊籍いそぎ打立て。荆及びに到り。関羽に告よと。玄德の命を傳へ。それより。吳の國を下向して。直に秣陵に致りけり。吳主孫權よび召して問て曰く。汝いかに。之を來ぬ。伊籍が曰く。某は。詔旨瑾の來りゆひ。之を荆及びの三郡を返す。孔明あり。孔明あり。孔明あり。遠く出たる。今追延引せり。之を某とて。荆及びの三郡長沙桂陽

江夏を分て返す。元來。之を返すべけれど。如何せん。曹操は。漢中を取きて。関羽身を容の地。今曹操とて。出て合肥の城。空虚あり。望らる。吳の國の勢を起して。合肥の城を攻め。曹操は。兵を引て都に回らん。君も。漢中を取。関羽とて。之を守らせ。そのと。荆及びに寸地も残さず。返す。奉らん。今も。疑の心を捨て。兵を起し。之を曹操に。大軍を引て。南に下らん。そのとき。之を拒ぎ。孫權が曰く。汝志づる。客屋を眠れ。評議して。之を定む。伊籍とて。退きけり。孫權諸の大將を呼て。之をのり。之と議し。張昭が曰く。是は。玄德が曹操を怕れて。若蜀を攻ると。有ん。是計

を行くものあり。まづれと。曹操が漢中を在るの以て速く合肥  
を攻取らば。又最上の計あり。顧雍の意見も其と同ト云  
けま。孫權はまづ使ひまづ。伊籍を回り。魯肅を命じて  
荆川の三郡を受取せ。兵を陸口に屯して。呂蒙甘寧を呼回  
し。餘杭へ使をよせて。凌統と招きよせ。三軍をめぐく。都をさ  
して攻上る。呂蒙が曰く。曹操は盧江の太守朱光を大将とし  
て。皖城を守らせ。田疇とひらき。稻を種て合肥の城へ兵糧を  
運ぶ。今ま。皖城を取て。そのち。合肥を取ん。孫權はまづ。同  
して。呂蒙甘寧を先手とし。將欽。潘璋を後備とし。孫權を  
めり。周。秦。陳。武。董。襲。徐。盛。と。引て。中軍を守り。大江を渡  
て。和。刀。より。皖城へ。かよせ。そのとき。程。普。黃。蓋。韓。當。は。各

處の要害を守りて。その陣を向せりけり。去程。皖城は。吳の  
大勢よとると。よめて。太守朱光は。合肥の城。人々と遣り。救  
の勢を求て。めり。固く守りけ。吳の大軍一度。截岸の  
下。おしよせ。息。操。破らんと。志ければ。城の上より。雨の降。おとく  
射下と。矢。手。負。死。人。その。救。と。あ。孫。權。が。盛。矢。一。川。中。を  
ま。ま。又。裏。かく。程。あり。け。孫。權。ま。退。き。諸。將。と。計。と。議  
さ。る。董。襲。が。曰。く。人。夫。と。加。城。の。四。方。土。瓦。築。上。勢。は。乘  
て。攻。破。る。べ。し。徐。盛。が。曰。く。雲。の。梯。を。堅。く。虹。橋。を。造。り。城。を。直  
下。して。お。れ。攻。め。呂。蒙。が。曰。く。い。やく。御。邊。達。の。計。は。早。速  
の。用。立。た。が。た。い。い。ご。ら。月。日。を。費。ふ。お。の。城。の。び。く。攻。め。合。肥  
の。城。より。後。攻。の。勢。蒐。え。し。志。ろ。家。と。ま。何。の。とき。ま。攻。破。る

べき某日城を破る計あり。孫權問て曰く願はまらん呂蒙が  
 曰くいま味方の勢初て来りてその勢ひ方々盛なり。まのど兒  
 み乘て三軍の銳氣を勵し四方より息をも継ぎて攻りけ斬れ  
 ども射れども顧みず乘超く攻上らば曉より兵を進めて  
 午末の刻に城を取らん孫權喜び誠まことと計ありと  
 て五更に兵糧を使ひ大軍一度に喊を造るるどとをあれど  
 先にと攻上るさまを城の内にも力と尽してさまを拒ぎ大石  
 と投りけ矢を放りて雨よりも志げまれば時の程に死人手負  
 ぬ千人に及び中にも呉の甘寧へ手も鉄の棒を提げ矢石を  
 冒して上りけ矢も城の大將朱光射手と揃り弩を伝へ  
 放り甘寧も矢をひきとせむと雨の降どくある矢の中を打開

き。城の截岸に上りけま内へ入ると大將朱光立塞りて攻  
 戦し甘寧鉄の棒を揮てま朱光と打倒しけま呂蒙の  
 攻上り朱光とすこく斫殺しけま降人を出るその板万入  
 腕城まで落ちるとき漸く辰の刻に及びそのとれ張遼へ合  
 肥の城より兵を分て後攻の為に来りけ矢も腕城まで破れて  
 朱光も討れぬと告げま半途より引回し緊く守りて戦は  
 んとす孫權の謀軍を収め城に入て民を安んづけらる大將  
 凌統召し應じて餘杭より来りま見と勝軍の賀を述孫  
 權謀將の恩賞を施し酒宴を設て持成けま甘寧恩賜の錦  
 の袍を被て席上坐して呂蒙まきりまその手柄を稱嘆し向

朱光と討く。一番の城より上りて、世に双あき手柄ありと  
いひて、酒半酣、いこりけふと、凌凌、俄に甘寧の父を殺せる  
仇ありと思ひ、生じて恨を以て骨髄を徹り、又甘寧が今日の軍を  
ひとり高名して、傍若無人たるを以て、怒り、やぐく、睨け  
るが、劍を抜て、席上より立座中、あまり、真をくひくを、  
劍を舞  
いて、樂をまき、甘寧あまを、とまいて、その意を曉り、前  
卓をおのけ、兩枝の戟を取て、臂をさし、進出て、  
も戟を以て、真を添ふといひ、けし、呂蒙大を、どろ、左の手  
に、楯を、持右の手を、刀を、提げ、二人のあひ、立隔り、御辺達  
とよよく、舞を、し、と、い、も、ま、ホが、巧、あ、ま、い、及、ぶ、ま、い、い、ひ、て、  
乃ち、刀を、ま、い、楯を、は、ひ、て、二人が、間を、あ、い、分たり、早く、その、由を

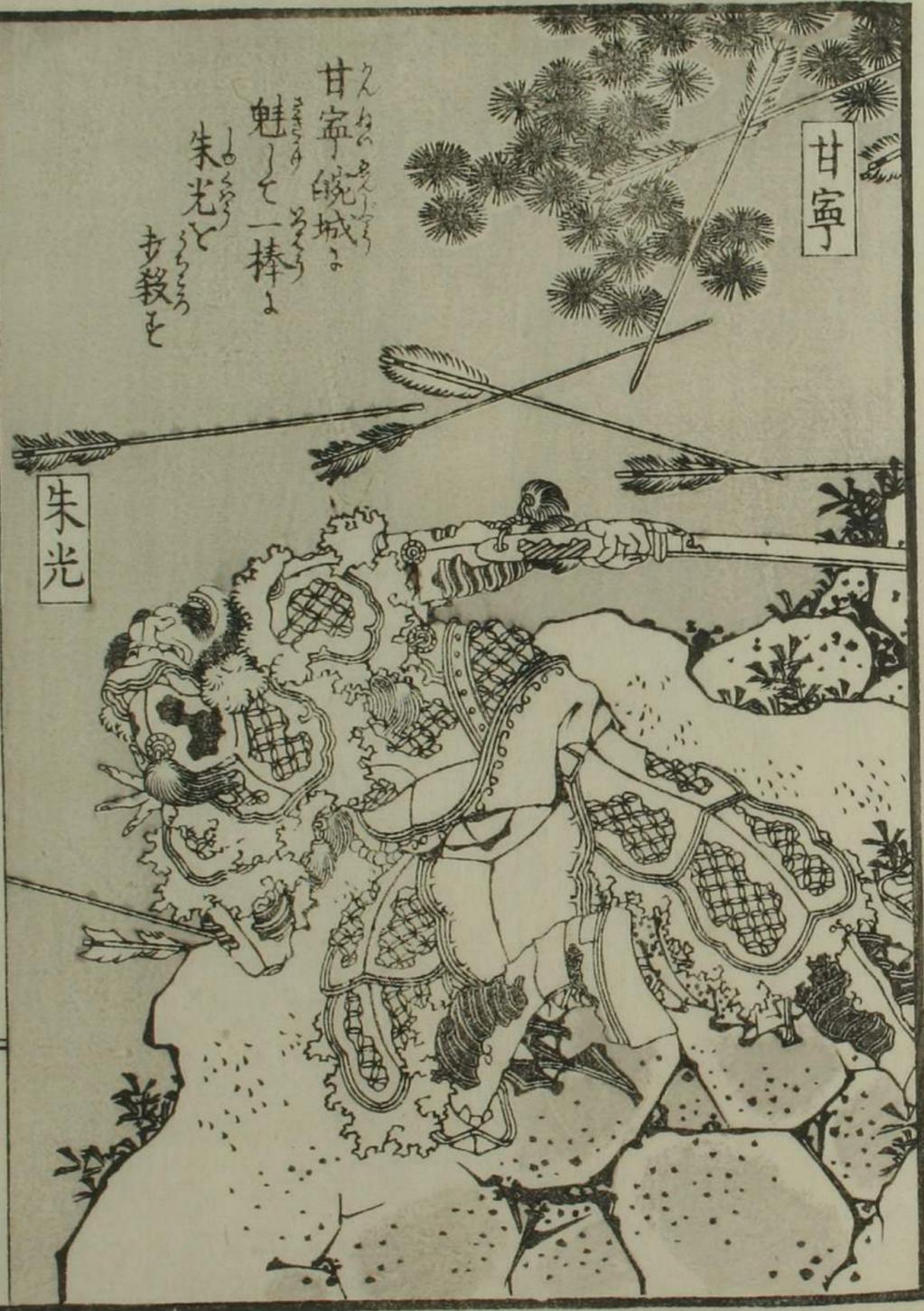
孫權を告ぐるものありけし、孫權驚きあはれ、馳きたり。席  
上より立て、二人を和け、常々汝二人のあつたを、曰き、仇を、あ、ま、  
と、あ、れ、といひ、今日、あ、ま、と、て、又、此の、お、と、く、あ、る、ぞ、と、叱り、けれ、ば、  
凌統、劍を、ま、て、地を、拜せ、孫權よく二人を、諭し、和げ、次の、日、  
大軍を、進て、合肥の、城を、攻、蒐る。去程、張遼、へ、皖城の、破れ  
たるを、以て、の内、安ら、る、る、あ、ま、心、ち、曹操、が、方、より、薛、慄  
とい、ふ、もの、を、使、し、一、の、画を、送、り、て、上、曹操、の、封、を、  
と、書、て、又、傍、に、敵、ま、た、ら、び、即、ち、開、け、と、あり、け、し、張、遼、の、ま、ご、  
癸、う、ご、ふ、あ、ま、早、馬、急、を、告、て、吳の、孫、權、十、万、余、騎、を、て、攻、ま、た、  
ると、報、を、薛、慄、が、曰、く、早、く、画を、開、き、見、え、人、張、遼、を、あ、ち、癸、  
き、見、る、ま、い、孫、權、攻、来、ら、び、張、遼、と、李、典、と、へ、城、を、出、て、戦、へ

樂進へ城と守りて生るとあり。有けき張遼とて李典樂進を示す。樂進すけふ將軍の本意いふせん。とあり。ひのみぞ張遼が白く丞相とてく生て漢中へ居り。人の呉の勢をまの城の穴虚とて侮りて。攻破んと。掌の内へありとあり。べし。今城と出て。さるよく戦ひ。奴原へ膽をはぶさせ。その銳と折き。諸人のんと安んじて。其後へ固く守りて生るとあり。李典元より張遼と不和ありけり。とて。味方へ寡ら。黙然として言を。樂進が白く。敵へ多勢ありて。味方へ寡ら。出て。敵對へ。固く守りて生ると無。張遼が白く。汝もも。私のんと。君の事と。瘡と。よ。人の兎も角も。あまの城と生て。華を。一軍と。そのちへ固く守りんと。

て。左右へ命じて。馬を引せけり。李典慨然として。座より起され。困家の大事あり。ある私の恨と。君の事と。わをれんや。某は。將軍の下知は。徒然といひ。張遼うぎり。喜んで曰く。御辺へ。助る。あら。明日一軍を引て。逍遙津より北へ伏せ。呉の勢の来りま。と。待て。まの。小師橋を。破落し。勢を分て。を討んと。計を定めて。退散を。呉主孫權へ。大軍を引て。合淝の城へ。近付。謀軍へ。下知と傳へ。曰く。兵へ。貴神速と。久り。早く。攻破と。と。呂蒙甘寧と。先手と。し。凌統を。引て。後へ。備へ。馬を進めて。攻蒐り。城の中より。樂進兵と。討て。生甘寧と。五六合戦ひ。詐り。負て。退け。甘寧呂蒙勝の。追蒐る。孫權先陣



甘寧



朱光

甘寧 皖城  
魅一棒  
朱光  
歩殺

の勝たふてきいて。凌統と後陣を結んで追うけたらうとて、道  
遙津をいりけるとき、忽然として、連珠砲をひびく。左より張遼  
右より李典、二手の勢渦巻出さう。孫權大におどろ死、手足を張て  
怖ま、戦まで急、呂蒙甘寧とよび回をとれ。張遼兵を引いて、真地  
暗に討て蒐る。孫權が手下に、たゞ三百騎をうりありけふが敵  
の勢、山の崩がどくある。氣を奪まて、戦ふまきやうもある  
り、凌統をよとあげ、君をみる。小師橋を渡で、逃れぬと  
よづる。あゝ張遼、真先をとて、二千余騎を引いて、矢を放つて  
兩のどくちより、凌統をよと推ぎ、命をとて、戦ひけまへ。孫權の  
あゝ馬を乗して、小師橋を渡らんとき、橋の南をよと一  
丈あり、欽落たり。孫權、怖ま、驚驚て、いゝせん。と身と探不

大將、谷利とらふ。跡を結き、君よ馬を引戻し、鞭を  
加へて、再び馬とのり放ち、一跳よとびあへんとよづりけまへ  
孫權馬を三丈あり引回し、再び鞭をとて、きうのり  
放ち、うぶその馬勢、ひのり。やまくと飛あへけまへ。徐  
盛、董襲、味方と救つんとて、舟を浮べ、むくへける。孫權が  
橋をよとふとき、張遼が勢、きうのり追うけしゆ。凌統と谷  
利とへ、又取て回し、大勢の中へ蒐入り、火出る。とて、戦ふたり。  
甘寧兵を引いて、後より蒐りけまへ。李典が勢、喊を造りて、討て  
蒐る。呂蒙一軍を引いて、その後を、さきとせよ。とせよ。又樂進  
が勢、氣のひいて、うけ立る。たれよひて、呉の勢、大半討まて、凌  
統が三百余騎へ一人も残らむ。討殺され、凌統も鎗をて、収る

所て突れ朱もちめてたゞ一騎橋と渡らんときる。橋とく  
く落て。志も馬疲れとまへ河に傍て逃けを。孫權舟の中  
より望を以て。まう董襲を命じて小舟を棹してむへども  
敗軍を収めて。河より南に陣を取。その日の合戦。あまりの烈  
しうて。呉の勢おびとしく討まへ。人とも張遼の名をきくま  
とを怖る。遼来くとやせ。江南の小児へあて夜啼をせむ。と  
いひ傳たり。孫權陣中を回りて。討またるもの。点検する。その  
枚あげて知がたけれを。ん愕ひて。まう治るを。諸將とくく來  
て見て曰。至尊へ則万民の主。當身を保めて。重く下る。之に  
今日の事。罵き怖る。まうとらふものなり。天地神明の擁護。あめら  
まうを争ふ。今日の危きと免まへ。君さく。心記して。一生

の戒と。之とやけれを。孫權涙を流して曰く。まもんの内。悲  
僅で肺腑を銘じて。あて忘る。こまけんとして。重く凌統を恩賞  
てあたへ兵を収て。濡須を回り兵船を揃。水陸とも。攻上  
とて。呉の困へ使を遣し。新手の勢を催促も。張遼へ合肥城を  
つと。諸將と相議し。今日道遙津の戦ひは勝るといふ。孫權を  
濡須にありて。水陸より攻上んと計る。その城中。勢不足  
て。始終叶まず。丞相を報じて。早に援兵を乞ふとて。まあち  
辭梯を使とし。夜を日。継で。漢中へ至らしむ。曹操の由を  
きいて。諸將を問て曰く。まも蜀を攻べい。劉曄が白く。いま蜀  
中を以て。定め。輕く。攻めし。志も。まも。成都を回り。合肥の  
急を救て。呉の困を破り。曹操げ。まも。同じて。復。孫權を留

て定軍山ていぐんざんと守まもらせ。張郃ちやうくわくと蒙頭岩もうとうがんとせめて。渠山きよざんの要害やうがいと  
 守まもらせ。その二人ふたりは漢中くわんちゆうと總攝そうさつしや。そのころ四十万よんじゆばんの大軍たいぐんと率そら  
 して。夜よと日ひと継ついでで路みちとへそぎ。直ちかに濡須ぬしよとまゝして攻せむ上のぼる。

繪本通俗三國志五編卷之三終

